

今回のイベントに参加して「障がい」を知ることができる良い機会でした。
楽しさの中で「バリア」を感じることができたダンス体験やVR技術を活用した車いすレースなどは、目を見張るもので、現代の技術の進歩に驚きました。

東京オリンピック・パラリンピックを来年に控え、パラリンピックに焦点をあてたイベントに参加して障がいについて改めて自分なりに考える良い機会でした。日常生活の中で様々な人がいてそれぞれに様々な生き方をし、お互いに分かち合うことが難しい社会だと思いますが、このオリンピック・パラリンピックを機に共に手を取り合い、機械などを介してではなく「人」同士で分かちあっていけたらいいなと思いました。

私は未来言語ワークショップに参加して、「視覚障がい者」「聴覚障がい者」「発語障がい者」の使っているコミュニケーション方法を身を持って体験することができました。障がい者にはそれぞれ言語があり、コミュニケーションもとれるということに、驚き、感銘を受けました。
ワークショップでは、普段関わることのない多くの人とコミュニケーションをとりながら、活動することができ、たくさんの刺激を受けました。

ワークショップに参加して、とても充実した時間を過ごすことができました。ワークショップで「楽しむ」ということを通して、他者へ情報を発信しやすくしていることを学びました。また、私達にできることは、友人や家族など、周りの人々と共にし、できることを始めることで、意識を変えられるのでは、とこの学びを通して考えることができました。

今回学んだことを今後活かせるように、勉学に励んでいきたいです。

今回初めて「耳が聞こえない人」「声を出せない人」「目が見えない人」の体験をして、学習した以上に何が不便で不安なのか、ワークショップのコミュニケーション体験で知ることができ、お互いに自分の持っている能力を活かして、相手にどう情報を伝えるのかが大切だとわかりました。コミュニケーションツールの「へっぽこダンス」では、自分の持った能力をどのように生かせば、楽しくしかも相手に伝えられるダンスになるのか考えながら、やることができました。そして、この体験で普段と違う視点で「ハンデ」について考えることもでき、良い機会でした。